

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1194300016		
法人名	有限会社とちの木		
事業所名	グループホーム紙ふうせん		
所在地	埼玉県本庄市今井1325番地1		
自己評価作成日	令和4年6月25日	評価結果市町村受理日	令和4年8月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和4年7月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

季節に沿った行事（初詣・花見・スイカ割り・外出・クリスマス会等）を担当職員が中心となって企画・実施しております。外出では、昼食を兼ねながら季節の花や紅葉等を楽しむため、市外へも出かけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・利用者1人ひとりのできる力を見つけ出し、各自に役割を持っていただくことで、自立した生活を送っていただくための支援が行われており、食事も職員が食材の買い出しを行い、ユニットごとに職員手作りの料理が提供されている。また、市で行われている認知症の啓発や情報交換等の総合窓口設置の検討に合わせた、窓口設置の連絡会に参加されている。
 ・運営推進会議は、定期的に開催され、地域での生活に関する情報の共有や検討が行われてきたが、コロナ禍で開催が困難となり、利用者と事業所の様子を報告書として会議メンバーに送ることで、意見や要望を汲み取り、運営や日々のサービスの向上に繋がっている。
 ・目標達成計画については、年2回避難訓練が行われ、過去の地域の災害に関する情報を活かした対策に取り組みられていること、コロナ禍で制限がある中、事業所周辺の郊外で密にならない環境を活かして、個別の散歩やドライブによる季節の花見や紅葉狩りなどが行われていることから、目標達成への取り組みがうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所・玄関・各ユニットホールに運営理念を掲示し、職員が常に運営理念を意識しながら介護が行えるように努めています。	職員は常に理念を共有し、上から目線で、指示的、命令的な言葉使いにならないように注意が払われ、利用者1人ひとりのできる力を引き出し、各自に役割を持っていただくことで、自立した生活を送っていただくための支援に、繋がられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、隣接する保育園や自治会等との交流が中断していますが、徐々に交流を再開したいと考えます。	コロナ禍により地域の催しへの参加や地域の方の事業所への来訪が困難となる中、個別の散歩時に、近隣の保育園の子供達と挨拶を交わしたり、農家の方から野菜の差し入れを頂き、お礼に飲み物を差し上げるなど、地域との交流が切れないうり取り組みが行なわれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本庄市福祉部介護保険課主催の『認知症普及啓発イベント』に作品を出品しました。また、設置を検討中の『認知症相談窓口』に係わる意見交換会に参加しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、対面による会議が行えておらず、文書による報告と文書による意見集約という形式が続いています。参加者も行政・自治会長・民生委員のみと限定的になっています。	多方面の参加を得て定期的開催されてきたがコロナ禍で対面での開催は困難となり、利用者や事業所の様子を報告書として会議のメンバーに送付して意見等を求め、汲み取られた内容は、運営やサービスの向上に繋がられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告書を送付しており、担当の地域包括支援センターからは、運営に関するご意見をいただいています。	市で認知症の啓発や情報交換等の総合窓口設置の検討が行われており、窓口設置の連絡会に参加されている。また、各種の問い合わせや相談には、各担当窓口より適切な対応をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時には、全職員が身体拘束に関する研修を受けており、当ホームは一切の身体拘束を行わない方針であることを認識した上でケアに取り組んでいます。日中でも玄関の施錠は行わず、自由に入出りができる環境を提供しています。	開設当初から身体拘束をしない方針を職員に周知し、新入職員を含め研修が行われ、研修後の報告書の提出が義務付けられている。また、マニュアルも整備され、言葉使いへの注意や帰宅願望が強い利用者の見守り強化も行われている。日中は玄関の施錠は行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時には、全職員が虐待防止に関する研修を受けており、入職後も継続研修を行うことにより意識を高めています。日常的に申し送りやミーティングにおいて情報共有し、虐待防止に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関する勉強会は実施できていませんが、今後は成年後見の対象となる方も入居されると思われますので、勉強会の機会も持ちたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約文書に沿いながら丁寧に説明を行うことで、理解・納得を図っています。不安や疑問に感じている点は、さらに詳しく説明を行います。制度や金額等の改訂があった際は、文書や口頭にて説明し、同意をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へのご家族参加が中断しており、ご家族等の運営に関するご意見を伺う機会が、面会時等に限られてしまっています。参加が難しい場合は、文書によるアンケート等での意見集約を検討したいと考えます。	利用者とは日頃の関わりの中で、家族には毎月写真や手紙で利用者の様子を知らせているが、家族からの面会要請が強く、制限付きで事務所で面会を実施し、汲み取られた意見や要望はサービスの向上に活かされている。	制限された中でも家族との面会を実施されています。家族からの意見や要望を日々の支援により反映させるために、意見や要望等を汲み取るための方策が期待されます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週、各ユニット毎に代表者(役員)や管理者が参加するミーティングを実施しており、職員から運営に関する意見を聞く機会を設け、必要なことは運営に反映させています。	利用者に喜んでもらえる支援や催しなどの職員からのアイデアや意見は、日々の支援に積極的に取り入れられている。また、直接役員には話し難いと思われることも汲み取るための検討をされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社役員が交代で出社しており、職員とのコミュニケーションを積極的にとり、個別な相談にも随時対応しています。また、介護現場の補助やミーティングにも参加する事で、現状を常に把握して課題解決を図っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員体制に余裕がないため、外部研修にはなかなか参加できていません。内部では、ミーティング時の活用や文書配布等による方法で研修を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本庄市介護保険課が主催する会議に参加する程度で、同業者との横の連携を図る機会が失われています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の面接時には、ご本人の話されることを傾聴するように努めています。また、ご本人の不安が軽減するようなサービス内容に関する情報提供を行います。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の面接時には、施設側からの情報提供の前に、ご家族の抱えている不安や悩みをできるだけお話しただいて、受け止めるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の現状や希望を把握した上で、グループホームとして提供できるサービスの内容や限界等について説明しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーションや行事等においては、職員対利用者という関係ではなく、一緒にその時々を楽しむように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者にとって、一番の支えになっているのはご家族であり、担当職員から毎月文書でご様子を報告させていただき、時には面会時に支援方法についてご相談させていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、友人、知人との関係を続けていただけるように、面会や電話を積極的にお願ひしています。	家族・親族に対しては制限付きで面会を実施されている。公園等で季節の花見なども行われ、訪問理美容等も継続されている。また、ZOOMの利用も行われ、制約の中でも馴染みの人や場との関係が維持できるように努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の特性や他利用者との関係性の把握に努め、職員が間に入りながら、お互いの会話が aumentari、一緒に行動することが増えるように努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居してからも相談があった場合には、適切に対応させていただき、必要な支援を行うように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活スタイルを尊重し、ゆったりとした日常生活の構築に努めています。一方で機能低下の予防、認知症進行の予防に向けたアクティビティ等が不足しています。	入居時に、家族から入居前の状況や生活歴・職歴などを聴き取り、入居後は本人に寄り添い、1対1の時間を作って傾聴に努めることで、不安や抵抗感を取り除き、思いや意向を汲み取り、実現に向けて、本人本位に検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前後の情報収集は細部にいたるまで行い、入居した後においても、面接等の方法で情報の交換や情報収集を実践しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の引継ぎや毎週1回実施されているミーティングを継続することで、心身状態や生活動作の変化等をスタッフ間で確認作業を行いつつ、共有を図っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人を中心として、その取り巻く環境から多面的に課題を抽出することで、より現実の生活に直結した介護計画を作成しています。	ケアマネジャーが全職員から利用者情報を集出して介護計画が作成され、センター方式を基本に、3カ月毎に見直しが行われている。また、ケアマネジャー独自のモニタリングが毎月行われ、利用者の変化を迅速に把握するなど、現状に即した介護計画の運用となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は、単調な事実や結果のみの記載になっており、日々の変化に気付きにくく、ケアの実践に活かしていません。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況から優先事項を見極め、タイムリーで柔軟なサービス提供を実践しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は近隣の保育所や地域サロンにも参加する等、地域との関わりを大切にしてきましたが、コロナ禍以後は休止中です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人・ご家族の意向を優先し、入所前のかかりつけ医を継続していただいております。希望により、当ホームへ訪問診療中の医療機関をご紹介させていただいております。	入居時に、従来からのかかりつけ医と4軒の協力訪問医療機関から、家族・利用者の希望の医療機関を選択していただいている。かかりつけ医の受診は家族の協力で行われているが、緊急時や状況により、職員による付き添いや代行がなされ、適切な受診支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隔週での訪問看護を利用しており、定期的に健康チェックや相談を行っています。電話相談は24時間可能となっています。併設施設には看護師が日中おり、必要に応じて相談や処置が可能です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中においても、病院の看護師や医療相談員等との連絡を定期的に行って情報交換に努め、安心して退院できるように準備を整えたりしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えた場合の方針については、入所時に説明や確認を行っています。実際に終末期を迎えた場合には、ご本人・ご家族の希望を最優先に考え、主治医・看護師・職員等との連携を図りながら、看取りケアを実践します。	入居時に利用者と家族に終末期に事業所として出来る事が説明され、契約書に重度化時の対応についての項目が設けられ、指針も作成されており、医師・看護師・職員が連携し、利用者と家族の意向を踏まえて、適切な終末期の支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医や看護師からの助言は、専用のノートに記載して情報共有を図り、対応方法に関する重要事項は、別紙にして掲示しています。実践力向上に関する研修は行なえていません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施しており、その際に入所者の避難、消火器の操作、通報等を実際に行いながら、消防署員の方より助言をいただいております。	年2回の避難訓練の内、1回は隣接のデイサービスと合同で、もう1回は事業所独自で実施されている。また、自治会長より過去の災害の状況を聴き、地域の情報を活かした災害対策に取り組まれており、災害種別に防災マニュアルも作成されている。	年2回避難訓練が行われ、過去の地域の災害に関する情報を活かした災害対策に取り組まれています。コロナ過で地域の方々の協力や見学は困難ですが、終息後は、地域の協力を得るための働きかけが期待されます。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	あだ名や○○ちゃんと呼ばず、○○さんと声掛けています。「～してください」というように声掛けてしまうことが多いですが、今後は「～していただけますか」と相手に判断を委ねる声掛けをしたいと考えています。	1つひとつの介助に対して、これから何を行うかの説明や声掛けがなされ、無理強いすることのない支援が行われている。また、利用者が他人に知られたくないことは知られないように配慮され、利用者が他の利用者をからかうような言動にも注意が払われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーション等においては、希望の内容を選択できるように複数の案を提示して、ご入所者本人に決めていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	入浴、食事、レクリエーション等は決められた日課に沿って実施されています。しかし、レクリエーションへの参加は自由であり、その他の時間は自由に過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で衣類が用意できる方は、ご本人の好みで衣類を選んでいただけます。職員が支援しないと難しい方は、同じ衣類の繰り返しにならないように配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りに関しては、職員が単独で調理を行っています。メニューに関しては、日々の食事の様子から、美味しく食べていただけるように努めています。後片付けは、テーブルやお膳拭きを手伝っていただいています。	職員が食材の買い出しを行い、冷蔵庫にあるもので献立を考え、ユニット毎に職員手作りの料理が提供され、栄養士によるサンプル調査も行われ、食事のバランスにも配慮をされている。また、おやつ作りも含めて利用者が役割を持ち、作ることも楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日記録しており、体重の増減管理や脱水予防に活用しています。栄養バランスに関しては、肉・魚・野菜を多種類使用して調理していますが、栄養バランスやカロリーに関してまでは把握できていません。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きや義歯洗いの声掛けとチェックを行っています。自立されている方はご本人まかせのため、汚れの確認までは行えていません。義歯は夜間にお預かりして、洗浄剤に浸しておきます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自身でトイレへ行かれる方については、その都度声掛けや介助を行います。定時誘導の方も、排泄記録を参考に個々の排泄パターンの把握に努め、誘導時間の決定に活かしています。	男子用の小便器も設置され、日中は、声掛けと定時誘導によるトイレ排泄を原則とし、夜間は、それぞれの利用者に応じて、無理のない支援がなされており、入居時にオムツだった方がリハビリパンツになるなどの改善例も見受けられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトを提供しています。また、毎食の食材には、多様な野菜を多く使用しています。便秘が続く方には、センナ茶を飲んでいただいたり、主治医より下剤を処方していただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回、午前と午後に分けての入浴を行っています。できるだけ個々の希望を取り入れられるように配慮していますが、業務の都合が優先されてしまう面も多いのが現状です。重度化しており、シャワーのみの方も増えています。	週3回を基本に、個浴で、ゆっくりした入浴が行われており、広い浴室と三方から介助ができる浴槽が相まって、自立の困難な利用者にも、職員の手による支援により、安心して入浴を楽しんでいただけている。また、現在、強い入浴拒否者はおられない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力の低下している方には、日中も自室のベッドにてお休みしていただいています。夜間は個室にて静かにお休みしていただけるように配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更となった場合には、口頭及び日誌や専用ノートに記載して情報共有を図り、経過観察も行います。薬情はケースに入れ、すぐに確認できます。誤薬を防止するため、空袋にて別職員もチェックしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	フロアの清掃、テーブル拭き、洗濯物たたみ等、ご自身でできる事を主体的に取り組んでいただいています。自由時間にもカラオケを楽しんだり、庭を毎日歩かれたりされる方もいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員数の関係もあって、個別には散歩しますが、皆が一緒に散歩に出かけることは難しく、庭先に椅子を並べ、外出気分を味わっています。実際の外出は、季節毎の行事として実施しています。	コロナ禍で、利用者全員での外出や買い物は困難であるが、事業所周辺の環境は、郊外で密になり難しく、日々の個別の散歩やドライブによる季節の花見や紅葉狩りなども行われ、庭園での外気浴や日光浴なども相まって、英気を養うことに繋がられている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	精神安定のためにお金の入った財布を所持している方はおります。ご家族にコンビニ専用カードを用意していただき、事務所で管理しながら買い物をされる入所者がおります。(コロナ禍のため職員が代行)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持してご家族をお話される方がおります。ご家族と電話でお話したい方やご家族から電話がかかってきた場合は、職員が支援いたします。お手紙を書かれた場合は、職員が投函を代行します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過ごしやすいようにエアコン、扇風機、加湿器を適切に活用しています。季節感を味わえるような飾りを入所者と一緒に作成し、ホールに飾っています。	花や利用者の作品、写真等が飾られたリビングには、堅苦しくなく利用者に読書をしていただけるように、趣味に合わせた書籍が置かれています。また、広い共用空間は、利用者が手押し車で食事を運んだり、清掃などの役割を果たし易い場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの南側にソファや椅子、テーブルが置いてあり、外を眺めながらゆったりしたり、入所者同士で談笑したりできるスペースとなっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には温度計・湿度計を設置して、過ごしやすい環境を提供しています。また、住み慣れた生活環境が継続できるように、入居時には使い慣れた家具や装飾品をご持参いただいています。また、思い出の写真等も掲示していただいています。	広く明るい居室は、使い慣れた家具や馴染みの品、趣味の品などを持ち込んでいただき、入居前の環境に近付けて、生活していただくことを目標とされ、畳敷きの対応も行われている。また、職員と一緒に各自が清掃を行い、共用空間共々清潔に維持されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を表示したり、居室を間違えないように入口に名前を表示しています。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム紙ふうせん

目標達成計画

作成日: 令和 4年 8月 9日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	コロナ禍のため、運営推進会議へのご家族の参加が中断してしまっているため、ご家族等より運営に関するご意見やご要望を伺う機会が少なくなっています。	ご家族からご意見やご要望を伺う機会を定期的に設けることができる。	ご家族の来所持にご意見やご要望を伺う以外に、運営状況について文書での報告を行いながら、ご家族に負担がないような様式で、ご意見やご要望について返信をお願いします。	6ヶ月
2	35	年2回の消防訓練では、火災を想定した消火や避難に限定されているため、地震による停電が起きた場合に混乱が予想されます。	地震等により停電となった場合でも、ご入居者の生活や介護に大きな支障が出ないような備えができる。	消防訓練時に地震や停電も想定した訓練も実施する。備品の乾電池式ライトは置き型、つるし型、ヘッドライト等を準備して暗闇時での効果を確認し、ご入居者が安全に移動できるかを確認する。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。